



古今武家雜誌 二
紙

本三

三

又 5
2334
2 上



明 又伊 日
號 2.934
卷 2

古今武家雜話卷之二

根岸文丸の益骨の事



一 井上河内が正利家中に根岸文丸といふ者ありて
士道小あつて、隨分公卿に者ありしもの、母上の妻に
泳ぐ美事毎骨文盲なり者ありし。河内が
在河内、少派の希茶湯にすくも下屋敷の者とい
見ると、次第の高ふ教、骨屋と稱ひ、歩道なり
或対例の者、と集め、茶を湯にそそぎ、河内が
中より、いさや、文丸が、吟く茶を、舌せ、一興あり
せん、者も、一坐の面、是の面白く、或、少、息、こ

茶碗の形は茶の飲居し志を骨たぐりしは肉も
可成思ひ道迎むれはふふ而目引袖引物ひき
し文をたぐり腹をく早に右折に降り宗直を
ゆく馬に熟置けし物も引く具は襦の蓋
し物ひ具とて五中肩引掛は上帯の小女
膝当六具とて坐の甲に緒とての大女と横に二帯
置て長刀に鞘とての馬に鞭すをせしとんと
とるは妻子宗直の者形とて河半の出居る
夏は花多しとての沙巻はたては信く云はれし
耳も更しとての沙巻はたては信く云はれし

より目の下小具の中はたては廣野とての
糸付長刀水車子振廻り大音揚り中儀侍と
との威多知是の事とて下は何れも茶と
飲事とての節も人やおし中知は燈籠とて
横にとて通る宗直の宮所は端りきりは是と見
られ一は後編は笑ひ道もきりて

高次弥曲事

一鳥居伊賀子江戸家光子高次弥曲とて者あり大
家しと稀なる其答り傳りたる者ありとて

坐交の義疎中り〜二級で自分の坐交と云
 りし後一人しと云ふ〜仕四條せき〜海の名
 是と云ふ〜逆悪〜彼〜ウ〜も〜事〜沙信
 沙知らぬ〜沙信〜達〜事〜孫世事〜
 系居所〜沙信〜之〜名〜非〜沙信白〜
 事〜能〜早〜普済〜海〜事〜下〜
 公の分事加〜事〜一家の思〜分事〜云〜
 法孫世〜一〜眼〜之〜事〜上下〜一
 和〜一〜家の家元〜事〜高〜也

二帯平馬吟の事

一 本多伯耆守高元二帯平馬別首字福〜
 為平馬〜事〜其後平馬信〜
 了〜事〜入〜道〜中〜
 尾〜一〜仕〜事〜其後〜教〜
 常憲公の〜事〜見〜伯耆守
 徳家〜事〜上〜意〜一〜程の者〜
 伯耆守〜事〜平馬常〜
 之〜事〜内〜事〜見〜
 以〜事〜上〜火〜一〜
 大〜事〜平馬〜事〜

上を〜の依り災懐き〜の分る支〜と結
の糸原の者災〜〜其後一倍の沙加増〜
三万石〜在光彼の才と大和が蘇我中子而
人〜飛舟の沙元中〜御舟〜梅子平馬の欠
濃子方と船〜多〜を〜〜依り平馬の事
伯耆子中〜も〜自分、安原〜伯
耆子奥向と安原下と意けて昔より地生〜
〜吉原の在女一カ更〜と法中〜妻中〜
〜其外羅子尾〜の女〜大勢抱ひ昼夜歌川舞
〜言〜其上〜も救度吉原〜眞〜小酒
煙草傳と〜傳ひ〜お方の在女平馬の

居の自〜言ひ〜た〜送感〜〜也如世物各自
の極〜其上伯耆子用令〜も引負者〜も然
る者〜伯耆子嗣子〜も〜甥と〜吉原中〜
〜羊長け三十版と部屋住〜と〜
〜伯耆子娘〜の〜不年〜早
〜其〜方中〜南〜部屋住
の〜平馬の〜是皆平馬の災因也〜甚恨
〜其後沙元中〜羊濃子も隠〜
依り平馬感〜伯耆子〜
宗普小〜平馬彼原上〜能隠〜
拾人杖持の〜平馬自分の抱屋安と所石原上

徳居一伯家子代子自之の嘉定とて上納人として
責つて被りし御置一今も志々然とて
是れ諸道具衣類とし責代とし修之志あり
も甚重なり其身も下座の宿とて其
の能くしお果し

松平氏濃子初之徳之身中支り家臣

とも由緒の事

一松平氏徳吉保の先祖甲斐の人なり由今武田
信玄の末葉也云云京國重寶とてお徳の武具等

信玄の持繼中少くも其首
常憲公館林小石少庵の研次強を命と
終百あり依の身上りて小十人治りて
此所去人仕りて其當官根権を
家元とありて其百人組の力に
中より者後より其教度なり
権多し各所徳の御置りて其也古
法り其力に徳は徳自各の
三将大將の御置りて其也
首に其徳の御置りて其也
後部百人并程並に置りて其也

其後仍く見事何の支も中あり〜也
 首等〜〜はり是皆傳り大者〜〜也
 と見〜〜弥々希何年〜〜沙側向の沙等
 と其〜其後沙波の牧野傳傳り多〜〜也
 此傳傳り及〜〜沙後月額の後〜〜也
 是〜〜沙等〜〜也〜〜也〜〜也
 沙等〜其後常憲公天下〜〜也
 石沙等傳〜其後名傳〜又公名沙等傳
 沃土羽等〜受傳〜沙側沙河人〜
 石山名〜及上石傳〜沙側沙河人
 下〜傳傳り〜云後〜沙光中の上〜

松平公傳り〜沙〜字傳傳り〜從四段
 下〜傳傳り〜如沙の三身上古〜各別治平の
 沙傳り〜又傳傳り〜其後名傳傳り五万石の言
 中〜甲府の地〜傳傳り國主の松〜其上
 次男の刑部少輔〜男成部少輔傳傳り知〜名と傳傳り
 白旗松平の祿傳〜不傳傳り〜傳傳り甲
 斐等〜及沙河甲斐等〜先祖の名〜傳傳り
 傳傳り〜西〜甲斐源氏名傳傳り〜世の傳傳り
 光左の官傳傳り〜今更傳傳り〜傳傳り
 今以松平〜傳傳り〜傳傳り〜傳傳り

見舞使者垂れぬ心平市とや馬と置屋
尺地とや其上神田指の内の上屋
建設度其少集り其其度其其名よりを
増の事料理の事より其度其の器物
屋風成古事他の道を馬を茶の湯道を
小倉の迄紙も下り此宗子納り也其少
の市少産の物と或銀の大天行の指し合
於合少と極多於依り其少合銀の少
らら多於其の物少集り上り少
の度其少産の今其少集り下屋
集り上り少

能揚而と撰て教多其於中少も野也の末少教
の大屋安より是少少少教と極少産の
万坪是より能少集り其少集り上り少
速能舟玉津島のと極少集り上り少
能少集り上り少集り上り少
極少集り上り少集り上り少
其景色云々少集り上り少
其少集り上り少集り上り少
其少集り上り少集り上り少
其少集り上り少集り上り少
其少集り上り少集り上り少

或は彼を求めてまわるといひ其意をいひて其意を
彼の者等と出 彼の者等を走し或は之を如僧と
其意のあらひの使ふは其意を道に免角の如く
せんまじとせしふも其意を偏し其意をいひて其意の
於て見れば其意をいひて其意を甲方に見れば
其意の言はれ如く首尾をいひて其意をいひて其意を
上りて其意をいひて

一 延宝八年 申五月 廿日 嚴有公 粟津 赤川 國屋

沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし
大元源井 雅樂頭 忠法 元中 福葉 貞隆 元中 貞久 依
加賀 忠朝 幸井 能成 元中 利房 堀田 徳中 元中 貞俊 貞年 貞

松平 因幡守 信長

右京後

石川 貞純 貞隆 貞政 貞初 貞

下りて其意をいひて其意をいひて其意をいひて其意をいひて
可なりて其意を増し其意をいひて其意をいひて其意をいひて
下の批刺如何なり其意をいひて其意をいひて其意をいひて
個吉 卿 沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし
城を攻りて其意をいひて其意をいひて其意をいひて其意をいひて
沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし
沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし沙汰の事いふことし

少色 地見下りてふ事一沙遣言の沙遣族少く下
 地見渡りたるは如何可き氣沙遣族少く下
 各々の事先集を 地見右名の程承り合可
 此言史を沙遣可花りて上りて族の事承り合可
 仰り族傳事早く是 地見右名元中方族見
 地見少く族見向ひ族見族見族見 地見少く
 少く事先集を成貞中上りて沙遣言の沙遣族の事承り合可
 冬四り言派事史下り族見及沙遣言元方族見少く下
 登 地見少く族見可仕る事上りて族見少く下
 沙遣言元方族見少く下 地見少く族見少く下
 地見言元方族見少く下 地見少く族見少く下

甚後可き事と畏く沙遣使史より此後族見及事上
 沙遣使史を 地見少く族見少く下 地見少く下
 吊別任権大納言西の丸に少く下 地見少く下
 思召お向く 酒井権大納言少く下 地見少く下
 少く下 地見少く下 地見少く下 地見少く下
 内通事承り合可此後事 上りて族見少く下
 權使可き事と畏く沙遣使史より此後族見及事上
 十上り其内忠臣の事承り合可和泉言元方族見少く下
 族見少く下 地見少く下 地見少く下 地見少く下
 可き事と畏く沙遣使史より此後族見及事上
 是より酒井内子初め族見和泉言元方族見少く下

石首尾小沙摩公然道先忠信道欣、今也通河内公
之仰分の指葉矢流子平公沙波教りた沙流之孫
世守流者沙流中と家督備子丹後守西通に、
京都河内公、
一

或説り甲府守平及波林守平及沙西人拾下向り
今字相伝沙流の事、
甲府及平及波林守平及の沙流の事、
今字相伝沙流の事、
依之波林及沙流の事、
免我自初流の事、
沙流界の事、

沙流の事、
是是流の事、
其流研以出羽守出羽守、
名りしを、
今字相伝沙流の事、
中流の事、
も同流の事、

お世の業お侍とて可成ゆは在寮石やも可成とて言
家祿の事の中分りの支へし給へ流乞言と益出らる
公田の事と申すは在麻の事と申すは其後居間と申り
は給へる事と申すは在沙路の事と申すは又其後の事と
言見事と申すは在是飛の居間と申りは給へ給へ給へ
言事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申すは
其後居間の事と申すは在是飛の事と申すは其後の事
と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申すは其後
居間の事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
は其後の事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
公儀向事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す

本は因幡の事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
公儀向事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
大向事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
自由と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
又其後の事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
宗祿お侍と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
一箱葉と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
嫡子丹后事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す
惣發子事と申すは在是飛の事と申すは其後の事と申す

買山丸山石垣所多し。浪人非の者公卿及上人親王
心跡とて流し以て多し。彼地とて祇祠の事とて濁宴
地真とて怪し。法少の務き事とて何れも内志と
以て訴者も丹後守とて何者少しとて不承可也。捕
との支由も多し。飛の在畏りしとて終に彼者とて是より
此浪人とて常憲公沙無石桂昌院及沙流石
瑠古所及の偏子少し。此處新布とて古者也。是を
常憲公沙丹方の沙流石とて桂昌院及沙流石
因持子少し。沙錫也。又三條家及上人少し。大言大前御
席とて又山科御座也。とて私人極意命とて御流石
源成宗御所とて私とて御とて此新布とて御所の沙流
石とて今も多し。此方の支丹後守思中業途方より
沙流石御所とて江戸より多し。是より多し。想は
物り玉とて多し。世王とて勤の法華寺沙流石
此流石御所とて世王とて流石の所とて新布中とて
桂昌院及沙流石方の御所とて松平英房
御所とて丹後守大言とて此流石御所とて常憲公
この丸とて多し。此流石とて此流石とて桂昌院
丹後守沙流石の事とて沙流石御所とて沙流石とて
此流石御所とて此流石御所とて桂昌院及沙流石
此流石御所とて此流石御所とて此流石御所とて
此流石御所とて此流石御所とて此流石御所とて
此流石御所とて此流石御所とて此流石御所とて

と此体と書は子嗣を承るに法は就中二男を成と書
子也 細言は命ありと那は市資徳と致む真字
四年丁卯二月廿五日書は子嗣承るに法は就中二男を成と書
お後此は命承るに法は就中二男を成と書
是の道中一の後一の胎より出生するに
此如一多し連く流川の流る如く高貴人の子孫承
るに法は就中二男を成と書
又一お多し連く流川の流る如く高貴人の子孫承
るに法は就中二男を成と書
しと可ぬに母を承るに法は就中二男を成と書
身り西交は終るに法は就中二男を成と書
此字知るに法は就中二男を成と書

無骨其上は終るに法は就中二男を成と書
るに法は就中二男を成と書
と此体と書は子嗣を承るに法は就中二男を成と書
名有公身は終るに法は就中二男を成と書
台高のり母を承るに法は就中二男を成と書
生の内は終るに法は就中二男を成と書
此字知るに法は就中二男を成と書
大勢は就中二男を成と書
此字知るに法は就中二男を成と書
家は就中二男を成と書
此字知るに法は就中二男を成と書

長興市故子に在津松城中より沙鉄に子好りて
小津松城中より石谷の由りし宮川に依りて
とありしを如くし不世母に依りて沙鉄に
其後子と依りて沙鉄に依りて
小津河上より文に依りて
之を其の其後子と依りて
石谷の交代書合の別あり
〜〜死に其子孫今も依りて

津松城中より石首尾の直良支分長尾小治市
世と向働の事

一 津松城中より石首尾の直良支分長尾小治市
寺島段中田市より一人其の其の寺島中尾は
松平秋房の浪人にして長尾小治市と八河城より
右佐の寺島に依りて寺島に依りて直良
松平秋房より寺島の交代と依りて長尾小治市
寺島に依りて寺島の交代と依りて寺島に依りて
寺島に依りて寺島の交代と依りて寺島に依りて
用人より寺島に依りて寺島に依りて寺島に依りて

後小普法入和泉寺在好橋子之宗塔之御首
甘くありし富村沙仙事古例より何事も子伝を
了
杉年何事も沙元中
之儀分何事も了也

伊藤一刀斎小聖法印為劍術の支 附一刀

流お侍りの中

一刀流の起り元來戸田流と元祖とを云ふ戸田り
兄弟あり是れ戸田通宗と云ぬ何れも由一箇字
の文字違ひは是れ人等戸田流元と云ぬ人等

流りて戸田流と云ふは元來戸田通宗の弟子子
伊藤一刀斎と云ふ者あり是一刀流と名付る初なり
此一刀斎通宗の流りと云ふは伊藤と云ふ下小元
之川者非と云ふ思ひ日本國と武者能流と云ふ
流りと云ふ其外所と云ふは伊藤の流りと云ふ
是留と云ふは還流と云ふは高れと云ふ天下一
劍の名人伊藤一刀斎と云ふは書終と云ふは
其所と云ふは是れ者も云ふは一刀斎振武と云ふ
信貞と云ふは是れは伊藤の流りと云ふは望むもの
夥しは是れ中と云ふは是れ者も云ふは是れ大業
我と云ふは是れ者も云ふは是れ也是れ一刀斎と云ふ

言ふし日以地をりしるる服首のりて後山はと皇
し其甚ふりて他國に沙城の如き其の富強も
計其し是報唯今後使しは道とちやるや
刀と地を地をりしるる服首のりて後山はと皇
一刀亦其各もりしるる服首のりて後山はと皇
たりて其亦もりしるる服首のりて後山はと皇
此者り後使かりしるる服首のりて後山はと皇
る中二刀亦もりしるる服首のりて後山はと皇
句危し其後之りしるる服首のりて後山はと皇
後使かりしるる服首のりて後山はと皇
たり

一期も一刀亦其各もりしるる服首のりて後山はと皇
りしるる服首のりて後山はと皇
何れも一刀亦其各もりしるる服首のりて後山はと皇
りしるる服首のりて後山はと皇
其後一刀亦其各もりしるる服首のりて後山はと皇
りしるる服首のりて後山はと皇
て今銀衣報とて其の類もりしるる服首のりて後山はと皇
りしるる服首のりて後山はと皇
能可分報とて其の類もりしるる服首のりて後山はと皇
りしるる服首のりて後山はと皇
りしるる服首のりて後山はと皇

計はくつりてさへし一語も少く神典信
一カ弁たつて不増の者非くは阿字知る
其意則と和る自分空知たし大勢
の者語ハ一刀亦し行せしり此り後世
是の世よの山月より曲信の身小取く不
以り居

一沙字神典信 浪人より五より一 台徳院殿
少領州の沙西院より少領の沙字と成
世もあま 少領名書き甚沙字家ありたり始
源文 少領より西信より世り院殿より者たり
沙字少し沙字あり一典信と見負の元流り

芸了しし沙字神典信 佛子天初のしり飛々の如く
子少中上を執り 台徳公 善法寺 鎌州の
神なりと名に支たり其通り少中三三
と成位きりたり 院殿より 進少院信の如
く少人より持りきりしり 院殿より 持
段て小聖治寺より改む

一 古沙字神典信 一人の子より 信少 小聖治寺
名あり親の百法剣持たり 台徳寺より 少
中より 早世二男の忠誠を云 家世可継者
非くも 癩痢の疾より 公儀向の節あり
史由三男 最善と進く 是の母より 二代目の

小菅原行房... 元平の中... 鎌州の若
 人... 親... 堀... の... 二男の忠
 誠... 右の... 疾... 法...
 又... 一生... 高...
 此... 加... 右... 流...
 一 右... 目... 其... 大...
 寺... 沙... 其... 研... 但...
 沙... 右... 流... 但... 馬...
 其... 名... 人... 其... 其...
 沙... 右... 其... 其... 其...
 其... 其... 其... 其... 其...

... 其... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其... 其...

一 或... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其... 其...
 ... 其... 其... 其... 其... 其...

しつりお人々を多き事ありしの変も此は此は古き
少し江戸中の評判も急早也 上宮小達も治部も
支那の鷹も此は孫文少河龍の身も
後少者の名も此は見ゆも此は名も此は名も
わさねも此は名も此は名も此は名も
何分も此は名も此は名も此は名も
所の村も此は名も此は名も此は名も
旅身も此は名も此は名も此は名も
百姓たのまも此は名も此は名も此は名も
伝説彼人も此は名も此は名も此は名も
一は此は名も此は名も此は名も

治部も此は名も此は名も此は名も
御も此は名も此は名も此は名も
見も此は名も此は名も此は名も
この内も此は名も此は名も此は名も
この口地も此は名も此は名も此は名も
ちりふこの内も此は名も此は名も此は名も
ゆり此は名も此は名も此は名も
待も此は名も此は名も此は名も
件も此は名も此は名も此は名も
在直も此は名も此は名も此は名も
おれも此は名も此は名も此は名も

の瑞子色纏と交せ沙剣の麻打寄く沙流夏の雲
宵しし也沙流夏まはるけり以りし言をん治市
たの顔色交り眼巾すし月く沙流夏の雲を
はうくく翔出んすきまを言ひし赤の連またり
より人をと飛城の所よりん并沙流まおあてし治市
たの顔と離まはるまを分てあうりし九世孫子とまを
あてをく急しし言を引止め是治市をく沙流まを
何とまをくく言ひし言を引止めて治市をくく言ひし言
て本此坐し直に流しし城し石使のくく沙流まを
出を流しし言ひし言を引止めて治市をく言ひし言
甚かき家の子やうく言ひし言を引止めて治市をく

市は言ふと見し言ひし言を引止めて治市をく
引沙流まを流しし言ひし言を引止めて治市をく
流しし言ひし言を引止めて治市をく
夫より言ひし言を引止めて治市をく
得し言ひし言を引止めて治市をく
しし言ひし言を引止めて治市をく
自身も言ひし言を引止めて治市をく
言ひし言を引止めて治市をく
し五代目の言ひし言を引止めて治市をく
中其子も今此九代し言ひし言を引止めて治市をく

海日新五兵衛の事

一 沙神忠誠の事 海日新五兵衛の事 下巻の尾
と通し流しふあは道者ありし朝由とて 喧嘩瓜
仕置りし。新五兵衛の何卒 徳便し 福入し 和
法を 流しきも 此者強御り 幸く 幸く 愛り
兎角 喧嘩と仕置りし 止むと 此は 互に 振合
勝負し 及ぶ 新五兵衛の 何卒 念と 此は 和
奴と 教すも 不便の 支なり 何卒 念と 此は 和
終下流し 喧嘩 此の 彼者 八世 下巻 下巻
悪り 流し 此の 内 彼者 流し 下巻 の 事
神話 流し 流し 此の 流し 真の 事 流し

急り 上の 支も 下巻 流し 下巻 下巻
新五兵衛の 刀と 水の 事 流し 下巻 下巻
新五兵衛の 事 流し 下巻 下巻 下巻
流し 下巻 下巻 下巻 下巻 下巻

柵生但馬も核瓜の事

一 柵生但馬も核と瓜は 瓜の 事 流し 下巻 下巻
流し 下巻 下巻 下巻 下巻 下巻
未熟 瓜の 事 流し 下巻 下巻 下巻
瓜の 事 流し 下巻 下巻 下巻 下巻
瓜の 事 流し 下巻 下巻 下巻 下巻

一可型... 友... 某... 録... 但馬... 彼者... 但馬... 思... 一... 但馬... 是... 何... 今...

又... 結... 合... 但馬... 結... 出... 結... 但馬... 出... 結... 但馬... 結... 出...

有馬玄蕃以別准宗譜お續の支分宗中
仕置の事

一 有馬義隆が病身中し初て玄蕃生す也

しより石川玄永之西成三年三月八日暮に卒し別年玄蕃

朝子無し左有馬玄内と改男無座島維と玄平

子あり玄平赤松後徳寺義隆初年不登八重侍所合身名を八重

義武嫡子あり今の八重合身也と云く義隆病

中し有座島維と玄平と云く此河島維亦一重なり同年

九月廿日玄内の宗譜お續同年十月十日叙後藤

任言善治と云く御仕置

右玄蕃以別准と云く武内

仁と云く馬と云く一重と云く維成りし時

智宗朝中し別准と云く玄内と云く初め玄内

と云く一重の仕置し維と改定法しつゝ玄内の

お成りし年歸りたりと云く玄蕃以別准也此自由

中し法と云く一重と云く世を玄内の名称ありと云く

しよ相成ると云く存しつゝ、案すりしよ玄蕃以別

の宗と云く別准と云く玄内と云く玄蕃以別准

宗法と云く一重民族憲と云く歸服し叙年未詳の宗

内流しと云く玄内と云く玄蕃以別准の如くお成り

中し及困窮しと云く今玄蕃以別准と云く玄蕃

と云く玄蕃以別准と云く玄蕃以別准の貴

と著しぬ自し物に向ふこと遠く大く仕直し
まはし也是別維の友相よりし百の禍ひ終
りて徳也玄蕃宗貞の家より出くお後考
まはし其御代への善長河よりかまはし
巴其所若修中々家の仕置宜なりは事一
宗中の権をもお後刻ひ御月の杖持方と侍り
勿し嘉子と若人可下り言ふたけ河邊も患ひ候
まはし言ふ善長河許に赴き候へり候はし人
こ悉く改め習ふ今も至る善長河と名に返候し
宗中 四本杖持方侍り候へり候はし 賢宗若人の
者と政の貴と若き善長河と名に侍り候へり

其上並年々用令しし教へ出せられたる九人の下あり
非は其所在宗若くは善長の名と毎度吟集次
女と名にまはし其のまはしと名に侍り候へり
まはし 誼令令と名に侍り候へり 善長河と名に侍り候へり
誼令令と名に侍り候へり 善長河と名に侍り候へり
直し今も誼令令と名に侍り候へり 善長河と名に侍り候へり
中ししちりり物もまはし 世代の名將と名に侍り候へり
誼令令と名に侍り候へり 善長河と名に侍り候へり
子孫の譽昌と名に侍り候へり 善長河と名に侍り候へり
御志は女誼令令と名に侍り候へり 善長河と名に侍り候へり

其初は所子行の内學力と師のつらさや義理を
二の者とと絶ひ公違向の支ひ目く心是又教年
をき後教と師一本なりは法事ゆゑなり是又
之等の全報に世に捨ん支と事く改めき此等
は所行無りそとの全報と費して世に事と事
を然るに又そと又そと全報を事なり他を
義理を所行の事なり由急程行は結合なり
後し義理行は用合に事なり是又義理を事なり
此の事義理行は所行の事なり沙弥人の河集と
しし四月の支者も官達をこれ友を義理を事なり
是等上の事なり是なり官達をこれ日母上の沙弥なり

言善法及古原の如くは法にて善しき事なり
其の如くは善法なりは事なり是なり是なり
此の如くは事なりは事なり是なり是なり
多神なりは事なりは事なり是なり是なり
言善法なりは事なりは事なり是なり是なり
のさなりは事なりは事なり是なり是なり
と由言善法なりは事なりは事なり是なり是なり
多神なりは事なりは事なり是なり是なり
置んは事なりは事なり是なり是なり
此の如くは事なりは事なり是なり是なり
女身は事なりは事なり是なり是なり

可之ニ如用事ヤヲ強ク反意ヲモ昔リシ節次女
 といふニ然レハ然レ出立リキリキ其事一も用金の
 終ハシキニ中務大補上座ノ事トシ一年の物トモ
 分給ヤト云流ルル志行リシノ事トモ切原源氏
 ノ事トシモレハ体ニ一家中ノ物云云アリキ
 况ヤ出入西人キレノ構ニ曾シキ事トモ其逆悉
 了及ビ也平々色々を流ルル由モ其ノ事知レ
 逆トモ其希用金トモ譲リ響ハ自分トモ一節トモ言
 はんノ事有リノ事トモ物トモ分給ノ事トモ云
 事トモ云々トモ宗元在一口トモ延々蓋シ是也
 兎角トモ延々内リノ事トモ云善次有る事トモ云々

宗元在辨カテ中務大補上座ノ事トモ其逆悉
 了及ビ也平々色々を流ルル由モ其ノ事知レ
 逆トモ其希用金トモ譲リ響ハ自分トモ一節トモ言
 はんノ事有リノ事トモ物トモ分給ノ事トモ云
 事トモ云々トモ宗元在一口トモ延々蓋シ是也
 兎角トモ延々内リノ事トモ云善次有る事トモ云々

官馬中務大補忠純承中ノ事トモ其逆悉了及ビ也

一 官馬の光徳中務大補其子トモ云善次其子トモ
大補忠純 甲午年三月廿一日の事トモ云々
 宗元在辨カテ中務大補上座ノ事トモ其逆悉
 了及ビ也平々色々を流ルル由モ其ノ事知レ
 逆トモ其希用金トモ譲リ響ハ自分トモ一節トモ言
 はんノ事有リノ事トモ物トモ分給ノ事トモ云
 事トモ云々トモ宗元在一口トモ延々蓋シ是也
 兎角トモ延々内リノ事トモ云善次有る事トモ云々

首とあももたすはあはれ其首と抱く兄弟は法を
海底に飛へるべきを以り誓ひし人其母たり
肉辛もあまなげすき物なりはり家元大弟同入
おきておぼしき法を以り家元とておぼしき法に
新中を以りおぼしき法を一室の中におぼしき法に
弟の殉死の事おぼしき法に親一柱の若母の法
たへに御り御り法の家元おぼしき法に推してはる
不知も也

根津推現由來の事

一 甲府守相綱重云沙由の事根津法長云云人
有りたりと綱重云沙由の事沙由は甚大酒に
おぼしき法を以りおぼしき法の事おぼしき法の事
り及ひ法の事おぼしき法の事おぼしき法の事
沙由は法に法を以り法を以り法を以り法を以り
以り法の事おぼしき法の事おぼしき法の事
其上下の事おぼしき法の事おぼしき法の事
又重て沙由の事おぼしき法の事おぼしき法の事
すもよおの如く法に常におぼしき法の事

沙州中七歌道... 細重公沙... 忠義の志也... 保志も家... 教を... 禁... 狭... 天下... 是也...

甲府細豊郷沙... 義孝

一 甲府中納之... 沙... 其... 其... 其... 其... 其...

附く中よりいふの多し。成者云。出家なり甚
 初稿の後者の由あり。此僧り。少形結可。此後
 戒を切らざる。小肉記す。く。了。然。能。事。了。然。也。
 公。其。の。少。料。理。人。と。是。り。自。言。は。ん。で。向。し。口。病。
 なる。所。を。言。ふ。結。し。て。成。者。と。ひ。て。智。者。の。名。も。
 沙。無。官。の。下。地。の。后。り。怪。來。り。の。多。し。了。然。中。に。流。
 出。其。上。り。少。形。結。す。り。少。右。左。も。り。と。も。成。
 内。記。石。害。た。り。梅。七。程。下。り。石。の
 枝。を。折。り。中。に。中。と。言。ふ。人。也。梅。の。置。る。中。
 公。少。由。成。者。り。若。し。是。形。結。す。り。結。す。り。口。を。閉。
 少。公。復。と。是。佛。と。成。者。り。と。は。り。少。後。又。結。す。り

少料理人とは法皇の侍り少形を其母天下に於て之を
 為さし僧正の友とて其庵を建立し速に成者
 成僧とす其公の友とて誰の言を其支りり
 此秘の支りり其難道と書流りの也。後、成、成、成
 居士也

一 其。以。其。寸。寸。り。も。り。後。波。山。護。を。流。後。少。形。結。可。也。
 成。流。流。と。云。天下。の。少。形。結。可。也。常。憲。公。其。少。形。
 佛。を。り。其。佛。性。流。可。者。の子。れ。り。知。り。の時。可。人。
 紐。の。子。力。大。概。河。集。り。り。茶。小。僧。と。節。り。り。り。
 宅。子。首。り。如。也。出家。氏。り。り。玉。の。妻。り。
 然。了。住。合。也。

一 常憲、公は沙汰子沙徒士御成と前多りて御成遣
しと名基言はるし人といふも思はれ公成り此
は其は沙汰子の約と爲て毎度川を玉とす
悉しと御成と約半とありしは平百道の川
終日釣合しは沙汰人目付見分て答めたり
却ら大に之後しはり分て止る所
備は沙汰人目付 公成御一きり早速沙汰成り
きの成るの言質力急少しは流るはしは御成
は初罪科出れとすも死罪と沙汰成り吉成り
研付お成り成り苦の言 常憲、公は沙汰成り
哲く延引しはるる言 宗重公は沙汰成り何
成りしは免るりて昔の如く沙汰成りお成り
成りしは運の強き人たりしは

一 義美と西家系中緒の支

一 尚内寮生太史坐りしは沙汰成り自合別は
沙汰成り百十倍は下お成り義美は沙汰成り其は
腹成り平史とし何賀の者也其は一族は公賀國
名成りの成りし腹成り上羽成り成りしは明智日向
男成り明智友道成り 宗成り公は泉抄成り

以舟平史早建馳名凡其日保の町人今并宗美
方々茶の湯らゆゆらるる誠善洞若若り其
くきり一宗ふく多沙輝政のと坪と沙之池分
載し宗と就之舟と沙路りもそんし彼の若狭乃
場とと沙通りりり平史一族たぬいん
左様沙通りゆゆの宗とと沙通りりり
次沙通りゆ平史と其の宗とと改め
りり平史と其の宗とと改め
常りり部仕其後天下一統の沙代と
宗不可仕由は仕ゆも老年の
中より仕ゆ其の宗とと改め

去後吉乃香山園書曲 此中宗より其の宗とと改め
進一如利の列しかり其の宗とと改め
附吉仕其後宗の宗とと改め
其子孫も平八 此中宗より其の宗とと改め
節とと也其の宗とと改め
沙通りりり其の宗とと改め
仕二男二男 此中宗より其の宗とと改め
七名 此中宗より其の宗とと改め
五名 此中宗より其の宗とと改め
等 此中宗より其の宗とと改め
沙通り 此中宗より其の宗とと改め

喜の西郷氏より忠告ありて女子 台徳公忠告云
の沙舟君也 實臺院殿と稱及此沙舟諸君編
子總たる忠告を言ふ沙舟はけりたりたり

一 美濃一族服部也羽子 明智滅亡を証し
以丹少村と誓ふ 名お村と改稱し其子孫
常憲公の沙舟松平英信子孫明に便りて

此の美濃は 然るに 彼も羽子の子光秀の
實子お村の家 明智の子孫と云ふ事 確りと
めしる間体とは非なり 松平右近が信玄元何
某の美濃子と云ふ

一 美濃西郷姓 服部より移樂の列子ありて

考もこの親世を史も 此は服部が終始其親世を
らん親世より先祖の服部親政孫より 是利親政
が改名の同別也 其名の服部河集と 楠正成
宗臣の由が此美濃西郷先祖武士とす 其
以親世より 同 後示め今 世の流に美濃
丹波後より 領地 丹波より 若くすも 此帯
り 家傳より 丹波後世より 事 こと 記 あり
一 南美濃美濃 元親より 西へ下り 下西迄 前より 継嗣
高し 又 山事 ありて 世に 傳り 及 子 川 橋
の 秋の 名 三 田 中 孝 存 隠 あり 休 息 名 改 名
公 氏 向 たり たり あり あり 武 村 玉 川 と 初 美 濃

の川に昔は川原の古りも後分帯力沙に先
此沙に向きあり節りふ幸由緒ありし到保古り
ききよらに休む方とて又いそぐし川原昔経
るにやうにふり其後昔は此川に極く人々を
たぐす事あり如く解き事ありしと流はつて度
破るふ此後昔の悪女たりしと誰ぞし人々
云者たりしとありは命熱におびに夜命限り也
此の類りも昔事とあり此の男はとて事あり
子ありしと問ふに親も果ては此の古宗昔
お續しし善女と命と改め彼の悪女といふ事あり
外に後分自白いふとあり妻とて此にいふ事あり

たのむとて道也と流る此の事ありしと後分帯力沙に先
の川に昔は昔の古りも後分帯力沙に先
若りしと問ふに親も果ては此の古宗昔
まはれ休むの休むとて命熱におびに夜命限り也
愚中浅言とありは命熱におびに夜命限り也
昔事ありしと問ふに親も果ては此の古宗昔
たぐす事あり如く解き事ありしと流はつて度
破るふ此後昔の悪女たりしと誰ぞし人々
云者たりしとありは命熱におびに夜命限り也
此の類りも昔事とあり此の男はとて事あり
子ありしと問ふに親も果ては此の古宗昔
お續しし善女と命と改め彼の悪女といふ事あり
外に後分自白いふとあり妻とて此にいふ事あり

根津法為一己の備は沙弥人となり申

一 根津法為の云 浪人者なり 此者望みの如く
其以 松平英信の發向の時を乞 場迄も亦
門前より下坐とて 才宜とて又 支那の西
乞願の事なり 而天の命も 如是 申年
及ひきよき 英信も 是れ 不思議
おとす 然るも 此の 志は 法
名と名 兼支 たり 英信の 玄案に 任所 今日
沙弥 不物 之 浪 強 ぬ ち 然る 不 急 勤
ま 上 法 師 之 業 在 焉 然る 亦 たり 之 故 之 反
入 其 市 向 法 師 之 業 在 焉 然る 亦 たり 然る 亦 たり

如是し 浪人 子 為 云 たり 物 之 通 り 科 法 師
多 かり 然る 亦 たり 其 間 亦 有 事 多 矣 伊 賀 之 沙 弥
其 年 考 方 二 三 日 之 間 法 師 之 業 在 焉 門 前
少 之 亦 之 如 目 是 法 師 之 業 在 焉 然る 亦 たり 然る 亦 たり
其 業 在 焉 然る 亦 たり 然る 亦 たり 然る 亦 たり
法 師 之 業 在 焉 然る 亦 たり 然る 亦 たり 然る 亦 たり
其 業 在 焉 然る 亦 たり 然る 亦 たり 然る 亦 たり
宗 智 之 業 在 焉 然る 亦 たり 然る 亦 たり 然る 亦 たり
其 業 在 焉 然る 亦 たり 然る 亦 たり 然る 亦 たり

、衆人、無く彼を、子存し、換多し、其免角母を、きり、
ありし、そのり、も、也、と、子、存、し、其、免、角、母、を、きり、
し、男、女、と、は、体、も、きり、用、金、の、利、分、は、遊、戯、及、此、の、
次、子、は、免、角、母、を、きり、其、免、角、母、を、きり、
身、は、法、師、し、子、存、し、右、を、改、め、元、年、及、是、法、師、と、
前、の、福、有、り、と、言、ふ、也、其、免、角、母、を、きり、
て、沙、弥、下、り、河、村、法、師、下、り、同、く、法、師、下、り、或、福、
人、なり、

新編後醍醐天皇の御事 卷之六 十月の御事 拾一
の事

一 昔の上り、平之入、沙、弥、友、の、内、今、納、り、及、之、法、師、
沙、弥、友、を、送、り、送、り、人、馬、の、沙、弥、友、を、納、り、
納、り、納、り、出、目、の、押、集、り、と、者、法、師、人、馬、の、沙、弥、友、を、納、り、
公、使、の、沙、弥、友、を、納、り、又、法、師、下、り、若、く、利、地、と、は、
侍、り、と、エ、夫、一、出、目、と、公、使、に、納、り、沙、弥、友、を、納、り、
と、公、使、に、沙、弥、友、を、納、り、上、方、に、文、及、之、中、に、納、り、
納、り、たり、公、使、に、納、り、
昔、の、沙、弥、友、を、納、り、
送、り、人、馬、の、沙、弥、友、を、納、り、
納、り、今、上、り、其、旨、の、利、地、又、納、り、如、是、思、案、之、

六ツ割取を三人一と毎一は主人の孫云一非道いある
法を又又三等の孫も亦一子成り何處の支那を
と申すは一官少し三人の儲蓄者一官少く何所
中不及は所この店と支那一と向一の高
拘るは是程何の事や月三三三の事合し法
とお法は京都の主人の主人日用のえり儲蓄
より何法一一年の事や又と孫のしお儲蓄的
分不道の事一も亦は法知是たり一也
あゆむはたふも上と也

冬木弥平次如之儀一官限一如一其時
一氣あり一死あり事

一冬木弥平次元久侯宗宗の御代あり一教年
節ころ地より一のし及一統制一店と一と一の少き
栞本屋一と一者一其以松平次法と一と一入用向
直一と一形命神田栞の内上屋一と一又自火と
焼失と一と一と一不次法と一と一向の形是あり
法大者一と一普法のの栞本と一と一上と一と一不と一
弥平次用向一と一直法と一と一各栞本の支と一と一
法と一と一と一そのひと一と一栞本何と一と一
目録と一と一と一冬木弥平次栞本と一と一沙文

きよき若生も不付し終りお果るり誠子其批
たあも也平元件の銀源もくもく穴居の
内り其毒も少し其毒も中りつり也と許を

一 此本本証年元氏代より如よりて午後子初夜と
たりもも其ま貨甚小道中々々置量せ給
律法一篇よりし善後ちり変と極ひき極と不
我ふ何ふ付し方上りり内理り此の支と一
きり後よりり以り只ひき人深川の下尾安子徳云
け也極ひ形希慮りせん也ひ氏代たふも限中
付ふも代也極也少しや者せん也色日あり

結句可くききひやう物せんくくも大なる事や
中を結いさくは下是んとし如く二三氏見さう
自分よりさうい他分希業如極極はと息ひく極の
結構もき結い大くも具よりし半二定を端り極
考り極は外極の善法あり無きさうのり世上の
批判客の考り学ばんり善の無也極也極と
速くも家と并前せんもさうたりとやせん角也と是
る色も善もまかり終りる善極と如りもくも善を
しりも不付しお果るり

三木平兵衛酒と好小女公儀の事

一 是も久松宗宗の代より判子あり初本高賣
き也此宗平氣の事とあり初法一も
如く是を以高ひ白の事と大衆の代り飲け共
身は後子一同の事とあり戸棚とあり其書
初之の書と常、終ひ蓋十宗十一宗ありの事と
例とあり是より初とあり終日酒飲ひる事と
と此事案ありと終ひ公の戸棚の内より程、の
書とあり終日酒飲ひる事と終ひ小女十宗あり
あり例、初も甘くあり終ひとあり一宗とあり又
小女を留め如き事とあり

松尾九郎月類公判を以てしる事

一 松尾九郎の事と此の考は京都全信一仲間のもり書とあり
一 江戸より又京より往來して法名も之とあり
生質松波少し居るの事とありと投出と徳組
一 中尾九郎の事とあり或河京都少し月類と
判子と終法と判子とあり代わと終の事とあり
てあり一判せきり終法合意とあり終り一判
小女流子初方と其終判子と判きと其痛堪
あり一判終判と判子とあり終法一判とあり
少半この事と直尾少しと終判とあり

きりきりや興きねしを

蘭之佐狂歌の中事

一 京都より菅原忠之佐の公卿浦井河集と云
所人又夫人の針路之人常々御事お合まの成村
針志師の名浦井河集より見ると如鯉魚の
送りも針路思ふ程うまの如き書も毎少し賞
瓶夫人より菅原の公卿夫人より上りて小菅
池又之を浦井河集はしりて寺の事也

おろりたる浦井河集見よと云うなり針路に
送りし鯉魚なり此針路と云ふは自ら西に
去りて菅原の上りて送りたる如き也針路は
送りし何れも知れりしりて浦井河の公卿を
送り互り具に信より又より針路志を池の上りて
おの想も送りしりて菅原の上りて別一を
の公卿より送りて是と浦井河集と云ふ信より

針路より菅原より魚と菅原に

送りたる魚の海より送り

と在りぬ公を了しし事よき事と云ふ事よき事
小刺さしむる後と見し事よき事と云ふ事よき事
涙とおもひ飛走りし事よき事と云ふ事よき事
在りぬ公の在りぬ公と云ふ事よき事と云ふ事よき事
彼事よき事と云ふ事よき事と云ふ事よき事
其上在りぬ公の在りぬ公と云ふ事よき事
江戸中在りぬ公の在りぬ公と云ふ事よき事
在りぬ公も我体よき事と云ふ事よき事
去る事よき事と云ふ事よき事と云ふ事よき事
一徳と云ふ事よき事と云ふ事よき事
移交初と云ふ事よき事と云ふ事よき事

勤定仕切きりし事よき事と云ふ事よき事
浪者と云ふ事よき事と云ふ事よき事

浪者と云ふ事よき事と云ふ事よき事

一 勤定仕切きりし事よき事と云ふ事よき事
公儀の善行を後人しす事よき事と云ふ事よき事
志し事よき事と云ふ事よき事と云ふ事よき事
了し事よき事と云ふ事よき事と云ふ事よき事

くまの木の者たりとも種ひ種合なり又ニ余合なり
利根と云ふ千根より好種一玉り合を以て深き
多根よりなり好種を初級として川村瑞好と改めり
此等沙光中より年々此を以て總名の沙良人なり
瓜へはくをのりて種を河村の由なるを福を葉
英法より作りて種を以て一ツの忠葉
と云ふ其以英法よりお丹尚余種を作りて種を
長高山と云寺あり英法より種を作りて種を
同く種を以て唐合の蓮のよ水種と考進りて
英法より種を作りて種を以て忠道と申ふの
知なきこと時希と云くも種を以て種を以て種を

上下の種人なり其及び思われく河合の沙良種
も其及之と云ふ種を以て其種を以て種を以て種
る種を以て種を以て種を以て種を以て種を
種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種
て地上産より種を以て種を以て種を以て種を以て種
人及之と種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種
所也種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種
人及之と種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種
其の種人及之其上は代々種を以て種を以て種を以て種を以て種
其の種人及之其上は代々種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種
其の種人及之其上は代々種を以て種を以て種を以て種を以て種を以て種

然るに此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
以て其の末堂のみより先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
係をきくも其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
ことく又く其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
系に延次承るは此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
後より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り
此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り此より先ん録せし事道に風中も其堂の傍に在り

より及る事あり也

瑞妙大座の器量者ありは信官不終り事

一 瑞妙大座の器量者ありは信官不終り事
女の上は此座より下りし事ありは信官不終り事
身より此座より下りし事ありは信官不終り事
其後此座より下りし事ありは信官不終り事
白く投也きり何事ありは信官不終り事
方り充角如何れかりありは信官不終り事

と揚へくも也又家の所人ふし何そ之更夫大分金と取り
しと云少法と云くも夫より後ハ酒とて酒の安と
少の系内の者中も極道て以て并り何と人金の
設く少法もわし極ふと各を當しつ法も臨水
名そと然ハ公依の少法も有り又法名名の前も有ら
全の法も理もく有る金也何と出とせれくの法
負う下の祇人日産彼は世上の事今より如法
世上の事今も又昔より我方もも有る今日も後ハ
この用金も酒を幸ふ所のものも不備も是れ我小
者より何より程りんせし也
或河臨水 少教人産坐息より也
某も法も少法も

少利と法も教年お勤む少法も下信官も此等也
少法も然るまゆる各少法も中少法もいふも
信官も有る一各部も少法も有る一文字も
少法の無用も一信名も有る一何れも
臨水の無りも一歸りも有る一世上一も各部
臨水の無りも一何れも一何れも一何れも
清くも少法も日産者も一何れも一何れも一何れも
少法も

江戸の路りきり板次第のふりかへり教りとの沙
用令とて上上げ候事とて沙路下の列より喜
孫令ふれり川村弥繁とてさへ漢ひたり福人たり
とてや

古今武家雜話 大尾

小山良徳
河藏

安政五年五月請
中島儀兵衛君写得之

